

この名人に頼みたい 服直し CONTENTS

02~04 〆直す、っていうのは、つくる、っていうことなんだよね。

06 ミシンが人を選ぶこともあるんです。

07~21 直しの美学

22 フィッターなら、持っていなくては話になりません。

23~65 直しの力

66 道具箱にも美学があるんです。

67~93 直し屋さん巡り

68	◎東京都中野区	be-FRESH	84	◎東京都渋谷区	SARTO原宿
72	◎東京都渋谷区	直し屋ベルベルジン	86	◎東京都世田谷区	SWAMP JEANS
74	◎東京都中央区	SARTO銀座	88	◎静岡県富士市	アトリ工絆
78	◎東京都渋谷区	縫い屋	90	◎東京都世田谷区	SARTO二子玉川
80	◎東京都世田谷区	コーダ洋服工房	92	◎東京都渋谷区	カリエンテ



ミリタリーの機能を取り戻す

REVERSE OF COOL



直しの中でもっとも困難な作業のひとつが、ヴィンテージ・アイテムをリペアするときの補修部分の素材探しだ。直す服が新しければ新しいほど、同じ素材やそれに近い素材を手に入れることは比較的容易だが、ヴィンテージはそうはいかない。単に着られるようにすればいいというのではない。長い年月によって生まれたその服全体が醸す雰囲気や、できるだけ削がないかたちでリペアしなければならないのである。ミリタリーアイテムの場合も同じだ。細部へのこだわりが強いミリタリー・ファンを満足させるリペアはなかなか難しい。上は、ほころんだ袖のリブを交換している。両袖取り替え(リブ込)で、価格8400円



BEFORE

年度や夏・冬で生地メーカーからテラーに届けられる生地見本。実物見本なので、高級生地が使われている。古くなった生地見本とは違って、小さな宝の詰まった玉手箱でもあるのだ。



裏地を付けることで、生地見本の縫い合わせを見えなくし、商品力もアップ。

高級生地が使われているとなれば、古くなった生地見本をただ捨ててしまうのもったいない。パッチワークの要領で縫い合わせて、ベストを作った。メーカーによって大ききの異なる生地見本を同じ大きさにカットして、前身2枚、後身1枚のパターンごとに生地見本を縫い合わせる。この段階で色や柄の組み合わせをしっかりとチェックし、ベストに仕上げる。これは特なし仕様の夏用で、ギンガムチェックの貼り付けポケットとベルトが可愛い。大きめのボタンが全体を締めている。冬用見本やウールの見本を使って、冬用もできる。価格8400円。

生地見本で作ったベストです



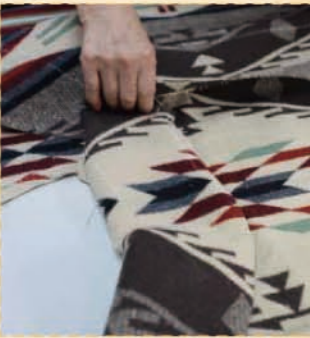
AFTER

ペンドルトンの毛布を「コート」にする [その2]

毛布が一枚しかないというのが、今回の作業をきわめて難しいものにした。というのも、分量的なことだけでいえば、コートを作るのに十分なサイズの毛布なのだが、柄をどう活かすか、最終的にどんな柄のデザインにするかを考えると、無難に型紙を当てられないのである。同じ柄が2枚あれば、かなり自由度は高くなるのだが……そんな困難な状況から、最終的には右のような裁ち合わせに決定した。ちなみに①は左袖、②は襟、③は右袖、④は前身、⑤は右の前身、⑥は左の前身。この段階では分かりづらいだろうが、縫製され、仕上がりのコートを見たときに、名人の柄合わせの妙に驚かされた。続きは次のページへ。乞うご期待。



あがってきた型紙をもとに、谷口さんが柄合わせを考えながら裁ち合わせ図を作成した。



直しの力

【お直しDATA】
 ◎身幅ツメ：バスト-12cm、ウエスト-16cm、ヒップ-12cm
 ◎肩幅ツメ：-4cm(全体で-8cm)
 ◎アームツメ：二の腕-2.0cm、肘-2.0cm、カフスで自然に消していく
 ●合計価格：1万9950円



AFTER ←-----→ BEFORE



この日、フィッターとして協力していただいたのは、SARTO原宿店長の関杏輔さん。

ワークジャケットをジャストサイズにする

オーバーサイズのPOST O'ALLSのエンジニアーズジャケット。アウターなので着丈はいじる必要はなさそうだが、ダブついた身幅はジャケットのシルエットを大きく逸脱している。落ちてくる肩を上げて、身幅の基本を決める。肩が上がると、自然に袖口が上がるので、袖丈は少し結めるだけでオーケー。なんと言っても大きな直しを必要としたのは、横から見ると妊婦仕様に見えるウエストまわり。胸まわりの-12cmに対し、-16cmという大ナタをふるったジャケットフィットに、POST O'ALLSも喜んでくれるだろう。

これだけOFF!!

